

## ヘイトスピーチに関する聞き取り調査（概要版）

平成28年3月  
法務省人権擁護局

### 第1 調査の概要

#### 1 目的

いわゆるヘイトスピーチを伴うデモ等が、その主な対象とされている在日韓国・朝鮮人やデモ等が行われた地域の住民に与える主観的影響等を明らかにし、今後の人権擁護施策の基礎資料とするため。

#### 2 実施主体

法務省人権擁護局

#### 3 実施時期

平成28年1月から3月まで

#### 4 聴取対象者

##### (1) 在日韓国・朝鮮人（帰化による日本国籍取得者を含む。） 計20名

性別 男性11名 女性9名

年齢 20代2名, 30代2名, 40代6名  
50代5名, 60代3名, 70代2名

実施地域 東京都新宿区6名

川崎市川崎区5名

大阪市生野区9名

なお、新宿区の6名は、いずれも1980年代以降に韓国から来日した、いわゆるニューカマーである。

##### (2) 地域の日本人住民 計6名

性別 男性5名 女性1名

年齢 60代5名 70代1名

実施地域 東京都新宿区 2名

大阪市生野区 4名

### 第2 聴取対象者の発言要旨（上記4(1)の聴取対象者に関するもの）

#### 1 ヘイトスピーチを見聞きした際の感情、その後の影響等

- 韓国人のジェノサイドみたいな感じがする。それが日本で、社会的に問題であることが残念ではない。先進国で、日本は世界でもトップのいい国というイメージを持っているのに、そういう問題が起きるのは理解できない（渋谷区在住の60代女性）。
- 殺気立っている人たちが、あれだけの人数でまとまってやるから、自分の感情がコントロールできなくなる。あの声が怖いとか、そういうことじゃなく、自分の感情がコントロールできなくなるようなところが怖い。お互いに潰し合いになることを想像して怖くなる（大田区在住の50代男性）。
- ヘイトスピーチによる影響は、特に韓国食材関係の商売にかなりあったと思う。マスコミがデモがあったことを放送すると、一般の国民のほとんどが、それを大きく見る。一部の100名、200名がやっているのに、それがかなり悪く影響

する。それで結局、韓国のもは買わない、食べないということになる。いい時と比べて悪いときは売上が半分に減ってしまった（新宿区在住の50代男性）。

- 3年ぐらい前、朝鮮学校が高校無償化から除外されたことについての大規模な集会があって、その後、デモ行進した。その時に、両側から、聞くに堪えない言葉を投げかけられた。「どうして生きているのか」、「日本から出て行け」、「その汚い血はなんだ」など、私たちの存在そのものを否定するような言葉で、泣きたくなるような思いをした（川崎区在住の40代女性）。

- 駅前で、善良そうに見える普通の青年が、「朝鮮人出て行け」、「お前たちはいらぬ」というプラカードを持ったり、拡声器を使ってしゃべったりしていたのが、すごくショックだった。普通の人たちが、朝鮮人、韓国人は汚いという教育を受けているのかと恐ろしく感じた。

北朝鮮関係の報道があつたりすると、子供も駅に行くときに、今日はヘイトスピーチ出てるかなと、怖がる（川崎区在住の50代女性）。

- みんなが聞こえるような大きな声で、傷つくようなことを言って、それに手を叩いて喜んでる人がいた。何でこんなバカなことをやるんだろうと思った。ああいうことは二度とやってほしくない。見たくもないし、行きたくないし、他の人たちにも聞かせたくない。孫たちにも見せたくないし、口にしたいくない。悔しいし、情けないし、怒りもある。

私たちの代でヘイトスピーチを終わらせたい。3世、4世はそういうことを知らずに、日本を大事にして、仲良く過ごしてほしい。孫たちに嫌な思いをさせたくない（川崎区在住の70代女性）。

- 息子は、デモを目にして、絶対に許せないと言っていた。息子は泣いていた。目の前で、母親のこと、友達のこと、大切な地域の人たちのことをひどく言われ、排除されるべき対象として母親が語られているのを受け止めきれない。

デモを見た後、息子はツイッターを気にして見るようになった。デモの参加者らしき人のアカウントについて、この人が、今同エレベーターに乗っていたらどうしようと言っていた（川崎区在住の40代女性）。

- 「国へ帰れ」という言葉は、私たちの存在そのものを否定するような言葉。悪意を持ってない人でも、「（日本に）何でおるん?」、「日本語うまいね」と言うことがあって、そういうのはヘイトスピーチではないけど傷つく。

「帰れ」、「殺すぞ」という発言を聞いた際は、「怖い」の一言。社会で活動している中で、自分が中傷や批判の対象になるかもしれないと思うと怖い（生野区在住の30代男性）。

- デモを見たときには、まず憤怒を感じた。朝鮮人出て行けと言われても、出て行けないからいるのであって、ちゃんと歴史を勉強してほしい。デモに参加していたのは若い人が多かったので、近代史をちゃんと勉強していればそういうことは言えないと思って、そういう怒りをずっと感じていた。

周りの日本人は、傍観していた。日本はこういう世の中なのだと思った。日本人にとっては対岸の火事なんだと。悪気があるわけではなくて、歴史を学んでいないから、朝鮮民族を蔑視の対象とする。同情されると言われることはあるけど、

同情ではなくて理解してほしい（生野区在住の60代女性）。

- 若いときは、差別というのはどんどんなくなっていくものだという確信があった。若い世代になれば、そういうのは馬鹿らしい偏見だって分かるようになると信じていた。ところが、（ヘイトスピーチをしている）動画を見つけてショックだった。よくなるどころか、そういうのが許されているということに。

恐怖も感じた。それまで在日であると名乗ることにそこまで恐怖を覚えなかったが、今は町中でも、そこらへんで話している人が韓国、北朝鮮、在日、慰安婦問題の話をしているとびくっとする。

社会の中で、ヘイトスピーチが許されている状態だから、私が在日だといって殴られた場合に、在日だと名乗ったのが悪いと、そういう方向に流れていきそうな気がする。初対面の人に対しても、用心する癖がついた（生野区在住の40代女性）。

- 子供たちに及ぼす影響は大きいんじゃないか。民族名で生きている子供はほとんどいない。自分の存在をどんどん隠さないといけないようになってしまっている（生野区在住の40代男性）。

- 街宣活動に通行人が賛意を示すことがある。ああいう街宣にシンパシーを感じている人がいるというのはつらい。それを許している日本社会に重たい気持ちを感じる。悲しいとかつらいというよりも、憂鬱で何もしたくない気持ちになる。

ヘイトスピーチを浴びると、何週間も苦しい気持ちを抱えながら仕事をするようになる。解消できないダメージがいつまでも続く。仕事をしている時なんかには、ふいに涙がこみ上げてきたり、夜中に目が覚めて眠れなくなったりすることもある（生野区在住の40代男性）。

- カウンター活動で200回ぐらいはデモ等を見ている。何千何万というヘイトを浴びてきたので、今でも、殺害コールの光景が、日常生活でフラッシュバックしたり、夢に見たりもする。嘔吐は何十回もある。

彼らは警察に守られながら公然と差別をしている。警察が荷担しているも同様。これを鎮圧する仕組みを社会が持ってないから、僕らがやらざるを得ない状況にある（生野区在住の40代男性）。

- 最近では殺せとかそういう汚い言葉はなくなってきたが、相変わらずひどい言葉を言っている。死ね、殺せと言わなきゃヘイトスピーチではないと主張するが、やっていることは在日に対する差別や差別の扇動に変わらない。

（「殺すぞ」などと）公然と道路の真ん中でマイノリティに向けて叫んでいることがショックだった。これを公然とやらせている社会とか警察にもショックを受けた。その日の帰りは、ショックと怒りと悲しみで涙が止まらなかった。これが許されている社会にすごい絶望を感じた（天王寺区在住の30代男性）。

- 正直、悲しいという思いもあったし、デモをしている人達も、なんでこういう人生を送っているのかと思った。その裏にどういう怒りがあるのかと考えたりもした。

警察については、デモが安全に行われるための警備だとは思いうけど、罵詈雑言に対して何の対策もなく、警察の指示に従ってさえいれば、あとは好きにやって

いいと言っているようなものだった（生野区在住の20代男性）。

- 警察が許可出して、守っていたことも怖いし、たまたま居合わせた人が野次馬みたいに見ていたり、無関心で通り過ぎて行ったことも怖かった。これから先、私に何かあったとしても、こんなデモを守っている警察が、私のこと守ってくれるのかと不安になる。

職場でも、上司や同僚が心の中でどう思っているんだろうと疑心暗鬼になってしまう。最近週末にミナミとか梅田でヘイトがあると聞くと、用事があっても行くのをやめてしまう（天王寺区在住の20代女性）。

## 2 法務省の取組に対する意見、その他要望等

- 「ヘイトスピーチ、許さない。」のポスターを見たときに、そんなことしないで、政府がもっと強くやればいいじゃないかと思った。これがあっても日本人はまっすぐ見ない（千代田区在住の60代男性）。

- ポスターは表現が強過ぎだと思う。表にはちょっと貼りづらい。逆に、ヘイトスピーチが起きたらどうしようかと心配になる。この地域の人を安心させたいのなら、もうちょっと柔らかい表現がいい（新宿区在住の50代男性）。

- ポスターは素晴らしいと思う。日本の人がやっていることに重みがある。差別はだめだと、声を上げてくれる人がこの国にいっぱいいるという証になる。

新聞やメディアにも、もっともっと、ヘイトスピーチはだめなんだということ発信して行ってほしい（川崎区在住の40代女性）。

- 教育の中で、日本には色々な国の人がいて、お互いの文化を尊重していかなければならないということを教えていかないとだめ（川崎区在住の70代女性）。

- ポスターの表現は、許さないとかじゃなくて、やめなさいとか、人権侵害ですとか、もっと強い表現にできないのか。

法的な差別がまだまだたくさんあるから、ヘイトスピーチが力を増すんじゃないか。政府の差別的行為がなければ、こういうこともなくなるんじゃないか（川崎区在住の70代女性）。

- ポスターの「許さない」という言葉は心強いので、これよりメッセージが後退するような変化は望まない（川崎区在住の40代女性）。

- ポスターは、ポーズだけでやっていると思っている。ポーズだけでなく中身を見せてほしい。国民に周知して、歯止めになるようなことをしてほしい。我々の問題をもっと周知して、弱者を守る体制を作らなければならないのではないか（生野区在住の60代女性）。

- 日本にはたくさんのマイノリティがいるっていうことをちゃんと教育してほしい。日本人は、自分の周りにいるのは日本人だと思い込んでいる。学校では、戦中戦後の在日の歴史っていうのが全部省略されて、それでデマが信じられやすい状況になっていると思う（生野区在住の40代女性）。

- 法律で罰則を設けることは必要だと思う。ヘイトスピーチは罰せられるに値する行為だと思う。

法務局の人達はヘイトスピーチを見たことがあるのか。ちゃんとヘイトスピー

チを差別事象として認識して、記録して、日本社会に残していくということがあるべき形だと思う。そうしないと、これが問題だという認識が広がりにくい（生野区在住の40代男性）。

○ 国の方でも実態を把握して、法律を作ってほしい。罰則をつけて、そういう人が出てきにくくするようにしてほしい（生野区在住の40代男性）。

○ 法務省にも、ヘイトスピーチの現場に調査に来てもらいたい。目の前で何がおきているのか実態を把握してほしい。法務局に被害に関する問い合わせをしても、現状これ以上何もできないと言われて、話にならなかった。

具体的な罰則が必要だと思う。ペナルティがないとレイシストはやめない（生野区在住の40代男性）。

○ 法務省のポスターは、もっと目にする機会があった方がよい。ヘイトスピーチって何かという説明があった方が分かりやすいと思う。パッと見ただけでは、何なのか分からないので。

国でも規制できるような法整備をやってもらいたい。差別をした人にはある程度社会的な制裁があった方がよい。少なくとも名前の公表ぐらいはやった方がよいと思う（天王寺区在住の30代男性）。

○ このポスターができてからも、状況は何も変わっていないから、形だけポスターを作ったと思っている。禁止する法律を作ってほしい。カウンターの力には限界がある。最初から行われないように、やったら法律で罰せられると決めてほしい。

日本の大学に行って驚いたのは、日本の子が在日の存在を知らないこと。説明しても分かってもらえない。教育をするのは必須だと思うけど、今の日本では無理かなとあきらめの気持ちが強い（天王寺区在住の20代女性）。

以上